

# 三角波

## 第2回：以心伝心

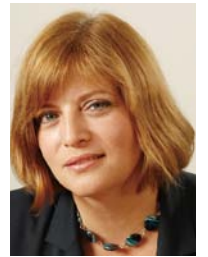
2月号ではラドリンさんに【アイ・コンタクト】という題でお話をお聞かせいただきました。今回は【以心伝心】 - 語らずともコミュニケーションできる (!!) 我々日本人の特質に目を向けてお話を伺いたいと思います。

**三角波** 時化した海で方向の違う二つ以上の波が重なってできる三角形の波で、船の舵が取れなくなる危険な状態を言う

### Degree of Directness (表現の度合い)



(Figuring Foreigners Out) Craig Storti 著 参照



人事コンサルタント  
パニラ・ラドリンさん

てみましたら、この図のように英国は日本と類似性があり、アメリカよりも日本に近いというコメントもありました。英国の国民性は、アメリカと比較すると物事を直接的に言わない部分を持っています。日本は国民性と単純比較する必要がある時にははつきりと、そして時には比喩的に、と使い分けをする特徴もあるように感じますが。

**ラドリン** その通りです。英国においても何も言わずにヒントのみで話し相手にわかってもらうといったコミュニケーション手段があることは申し上げておきたいと思えます。ですから、「以心伝心」は特別日本人に限ったコミュニケーション手段ではないと思えます。ここで私が働いていた時、実際にあったことをお話しします。

ある日、日本人の担当者が、英国の取引先から届いた手紙の内容が理解できないということに私の所に相談にきました。もちろんこの担当者は有名大学卒で、英語も上級の方でしたが、私はこの手紙を見るなりこの手紙の意味するところが瞬時にわかりました。実は怒りを抑えながら、受けたサービスマンに対して不満をぶつける内容だったのです。例えばその時の英語の表現は「merely」が「you would be so kind as to...」といった、日本語で言えば懇懇無礼であることを隠すことをせず、しかし言い方には非のうちどころがないような表現でも申しまじょうか、「To read between the lines」の読みが必要な場合もあります。

**飯塚** 行間を読みとって頂き、私の申し上げたい事をお汲み取り頂きたく...というメールを私も先日ですと英国人の「コミュニケーション方法も日本人と変わらないうところがあるのです。しかしながらこの行間を読むという日本語での表現はひよっとすると欧米からの外来語ではないかとする説もあると聞きました。というのも、古来の日本語では行間を読むことはあまりにも当たり前であり、翻って英語ではこの言葉をはつきりと言わなければならなかったのでは、と。

**ラドリン** 興味深いポイントですね。高等教育を受けた英国人の中には特に婉曲表現を好むケースがあり、例えばTVの往年の人気コメディ番組「Yes, Minister」を見てみるとその特徴に気付かれます。色々な言葉を使って機知にとんだ表現を好む人々に支持されている番組です。ただ欧州で生活される場合は、英国人の婉曲表現の部分に触れることにより、「コミュニケーションの方法が似ていると思込んでしまわれるかもしれないが、英国人とのコミュニケーションを以心伝心的方法に軸足を置いて行うと、思うように物事が運ばないことも出てくるおそれがあります。

**飯塚** 私も英国で長いこと仕事をしていますが、以心伝心的な方法に軸足を置いたコミュニケーション

**飯塚** 日本でも物事ははつきり言うようにと学校では教わりましたが、一方では以心伝心文化が生活の一部として思考方法にプログラムされていますから、欧州で生活される場合は意識的なアプローチが必要なのかもしれません。本日はどうも有難うございました。



センター・ピープル代表取締役  
飯塚忠治

**飯塚** この図ををご覧いただいで、ご自分の経験に照らし合わせられる読者も多いのではないのでしょうか。ところで英国はこの図の中で真ん中から少し日本寄り位置して見えます。日本で生活経験のある何人かの英国人にこの点を聞いて

**飯塚** この図を引用したのですが、この図をご覧いただければ、物事の表現の仕方は、日本とアメリカでは両極に位置しているということに気付くかと思えます。一言で言うならば、アメリカ人のコミュニケーションは直接的であり、話をしたことが全てであって、極端に言えばそれ以下でもそれ以上でもないということがいえると思えます。アメリカでは「以心伝心」という概念のコミュニケーションの方法は存在しないと考えて物事に対処すべきことを示唆しています。一方、アメリカ人にとって、日本人と話していると「いったい何を言いたいのかわからない」という状況が生じる可能性を示しています。

この図は、国民性によるコミュニケーションの違いについて述べ



## Pernille Rudlin

European Representative

Japan Intercultural Consulting

人事コンサル、トレーニング

Phone/Fax 44(0) 1372 200 604

Mobile 44(0) 7867 806 539

pernille.rudlin@japanintercultural.com

www.japanintercultural.com

人材紹介のスペシャリスト



135 Cannon Street, London EC4N 5BP

Tel: 020 7621 3581 www.centrepeople.com